

また、今年度初めてイカナゴの漁況予測を試み、実況との比較検討を行った。

◎ヤリイカ漁況予測

- ① 津軽海峡（5～6月）のヤリイカ漁況予測……5月11日発行のウオダス漁海況速報（No. 496）に掲載した。

予測対象の時期及び海域：5～6月の津軽海峡（三厩・佐井・大畑）

○ 予測の根拠

- ① 春（3～6月）のヤリイカは、日本海沿岸を北上し津軽海峡へ来遊してくる。
② 5～6月の津軽海峡のヤリイカ漁獲量（A）は、3～4月の日本海沿岸漁獲量（B）と密接な関係がある。

$$A = -0.007 \times B + 20.0$$

○ 予測結果

平成4年3～4月の日本海沿岸のヤリイカ漁獲量（B）は、576トンとなっているので、予測漁獲量は式から16.0トンとなる。

なお、ここでは海況の要素は検討していない。

（参考）5～6月の津軽海峡のヤリイカ漁獲量（トン）

年	62	63	H1	H2	H3
漁獲量	17.3	22.2	23.8	8.2	23.2

○ 予測文

津軽海峡（5～6月）のヤリイカ漁獲量は、昨年をやや下回る。

○ 実況値との比較

（実況値）平成4年5～6月の津軽海峡のヤリイカ漁獲量：12.5トン

ほぼ予測通り

- ② 日本海ヤリイカ漁況の見通し……12月11日発行のウオダス漁海況速報（No. 537）に掲載した。

○ 予測の根拠

ヤリイカ漁況の本格化は、沿岸水温が10℃前後の頃にみられる。

○ 予測文

今年もヤリイカ漁の本格的な漁期入りは12月20日過ぎになる見込み。

○ 実況値との比較

（実況値）本格的な漁期入り（鯹ヶ沢、大戸瀬で5日間の漁獲量が10トンを越えたとき）は、12月26日以降であった。

ほぼ予測通り

◎スルメイカ漁況予測

- ① 日本海スルメイカの初漁日の予測……5月11日の発行のウオダス漁海況速報（No. 496）に掲載した。

○ 予測文

青森県日本海沿岸のスルメイカ漁の初漁日は昨年並。

- 実況値との比較
 (実況値) 5月22日に三厩・小泊・下前港で初水揚
 ほぼ予測通り
- ② 日本海スルメイカの夏(5~9月)イカ漁況予測……6月1日発行のウオダス漁海況速報(No.500)及び7月6日発行のウオダス漁海況速報(No.507)に掲載した。
- 予 測 文
 6月1日: 本県日本海沿岸の夏イカ漁獲量は1,500~2,500トンの見込み
 7月6日: 青森県日本海の夏イカ漁獲量(5~9月)の予測、2,800トン。昨年・一昨年を上回る。
- 実況値との比較
 (実況値) 夏イカ(5~9月)漁獲量は2,592トン
 ほぼ予測通り
- ◎ イカナゴ漁況予測……4月21日発行のウオダス漁海況速報(No.492)に掲載した。
 (当初の予測対象でなかった魚種)
- 予測対象海域…むつ湾
- 予測の根拠
 試験船による稚仔魚群分布調査の経年比較による。
- 予 測 文
 イカナゴ漁況のみ通し、昨年並。
- 実況値との比較
 むつ湾平館の4~5月の漁獲量は122トンで昨年(10トン)の12倍となった。
 問題点: 現状の調査体制では発生量をとらえきれないことが考えられる。
- ◎このほかの漁況予測システム開発状況(手法開発中)
- サクラマス漁況予測…サクラマスの南下期(1~3月)と北上期(4~6月)の漁況及び水温の
 下降状況と初漁日との関係について資料を取り纏め中。
- サケ漁況予測……サケ稚魚の放流数と回帰魚の関係、海況と回帰状況などについて整理中。
- ヒラメ漁況予測……ヒラメ稚仔の分布状況と漁獲量の関係について整理中。
- スルメイカ漁場形成予測…漁場形成要因について取り纏め中。

速報の内容

1. 発行間隔及び発行日 5日毎を目途とする(周年)
 各月 1と6の付く日 土・日曜及び祝・祭日に当る時は休日明けの日
2. 情報の項目
 - (1) 海況: ①人工衛星画像 ②沖合の海況 ③沿岸の定置水温
 - (2) 漁況: ①県内主要12港の漁業種類別・魚種別水揚状況 ②県外の水揚状況 ③スルメイカ、アカイカ情報
 - (3) その他: ①試験船の調査結果 ②漁況、海況のトピックス ③サカナの生態の話 ④漁況・海況の長期予報 ⑤主要魚種の漁期間累積漁獲量 ⑥対馬・津軽暖流の流勢指標 ⑦イカ釣漁船の漁場図 ⑧スルメイカ短期予報

3. 対象魚種 (15種)

- (1) スルメイカ (2) アカイカ (3) ヤリイカ (4) ブリ (5) マグロ (6) マイワシ
(7) マサバ (8) マタイ (9) サケ (10) サクラマス (11) ウスマバル (12) イカナゴ
(13) マダラ (14) ハタハタ (15) アブラツノザメ

4. 対象漁業及び海域

- (1) 定置網 (2) 釣 (3) 延縄 (4) 刺網 (5) 底曳網 (6) 旋網及びその他沿岸漁業
対象海域は本県漁船の出漁海域

速報資料の収集方法

収集間隔	情 報 項 目	方 法
毎 日	① 試験船の調査結果	漁業無線
	② イカ釣標本漁船の操業状況	〃
3日間隔	① 人工衛星による水温画像	パソコン通信
5日間隔	① 県内漁況 (12漁協)	主に電話による聞取り
	② 県外漁況 (5~6ヶ所)	〃
	③ 沿岸の定置水温 (県内12ヶ所)	〃
不 定 期	① その他の漁況・海況の情報	

速報資料の処理方法

1. 人工衛星による水温画像

(社) 漁業情報サービスセンター (以下 J A F I C とする) よりパソコン通信を通じて入手した水温画像をカラープリンターで印刷し、等水温線図を作成する。

2. 沖合の海況

- ① 人工衛星による水温画像が入手された場合は、必要な海域を抽出す。
② 試験船による海洋観測の資料が入手された場合は、0・50・100m層の水温水平分布図を作成する。
③ ①、②の情報のない場合は、J A F I C 発行の漁海況速報の表面水温分布図から必要な海域を抽出す。

3. 沿岸の定置水温

各地点の5日間の平均値を算出し、現況及び前回・前年・平年との差について解説。

4. 県内漁況

日別水揚報告を集計して、5日間分の漁協別・漁業別・魚種別の水揚情報として取りまとめる。
各月の2回目の発行日には主要魚種について漁期間の累積漁獲量 (過去4ヶ年分) を取りまとめる。

5. 県外漁況

主にスルメイカ・アカイカの日別水揚情報について5日間分取りまとめを行う。

6. その他の情報

試験船の調査結果、イカ釣標本漁船の操業漁場等について漁場図等を作成する。

速報の提供方法

郵送によるものが主体であるが、一部ファクシミリによっても提供している。地元の関係機関には直接配布している。

年度途中の12月16日発行“ウオダス”漁海況速報をNo.538号からはN T TのFネット網を使用し、ほぼすべての機関に対してファクシミリによる提供に切り替えた。

提供方法	提供先の類別	件数
郵送	① 県内の漁協	54
	② 県内の市町村	27
	③ 関係水産試験場	18
	④ 国の関係機関	12
	⑤ 県・漁業団体	19
	⑥ 水温情報入手先	5
	⑦ その他	12
	小 計	147
ファクシミリ	県水産課・J F I C A等	9
直接配布	鯨ヶ沢町漁協・新聞社支局等	6
	合 計	162

速報提供の実績

平成4年度中に“ウオダス”漁海況速報をNo.489～558号の計70回発行した。

提供した情報の内容区分毎の提供回数及び年間に対する発行割合は表のとおりである。

情報区分	情報項目	回数	比率
海況	① 人工衛星による水温画像	9	13%
	② 沖合の表面水温図	58	83
	③ 沿岸の定置水温	70	100
	④ 沿岸の定置水温（一年の総括）	4	6
漁況	① 県内の水揚	70	100
	② 県外の水揚（スルメイカ、アカイカ）	54	77
その他	① 漁況・海況のトピックス	10	14
	② 漁況・海況長期予報	6	9
	③ 主要魚種の累積漁獲量	12	17
	④ 対馬・津軽暖流の流勢指標	7	10
	⑤ 漁況の短期予報	5	7
	⑥ 試験船の調査結果	11	16